

## 第3章 教訓・提言

### 3-1 「国際交流を通じた人づくり」

当初、国際交流的要素と研修的要素を対立的なものとして捉え、JICAが実施するODA事業として、このプログラムが国際交流と研修のどちらに重点をおくべきであるのかという問題を最大関心事の一つとしてこの評価調査を開始した。しかし、関係者や帰国青年とのインタビューを通じて明らかになったのは従来国際交流を目的として計画された合宿セミナーやホームステイが日本人の勤労意識や時間意識を伝え、研修的な役割を果たしており、また研修的な部分である講義や視察においても国際交流促進の可能性があるという事実であった。このプログラムの目標について、国際交流と研修を対立的に捉えず、このプログラムがJICAの他の研修事業と比較してユニークな研修機会の提供の場、「国際交流を通じた人づくり」の場となっていることを高く評価し、プログラム運営の基本的な柱としていくことを提言する。

「国際交流を通じた人づくり」とは第一に技術・知識の移転の基礎となる文化理解を促すものである。JICAの他の研修事業においては、技術・知識の移転に主眼を置き、その効率的な実施を追求してきた。技術・知識の重視は無論、途上国の社会経済開発のために不可欠であるが、それは文化的・歴史的な差異を十分に理解した上で受容されなければならない。青年招へい事業は技術・知識の移転を直接的に行うプログラムではないが、その基礎となる文化理解のためにこれまで大きな成果を上げてきたといえる。青年招へい事業のこうした成果はJICAの実施する他の研修事業に対しても示唆を与えうると考える。

第二に「国際交流を通じた人づくり」は途上国の社会経済開発に対する直接の働きかけではなく、途上国の個人の成長に地道に努力することによって、ひいてはその社会の発展に貢献しようとする長期的な人材育成の方策である。「人間中心の開発」が叫ばれる中、人間を単に開発の道具としてではなく、開発の主体・目的として捉え直すことが必要になってきている。今回の調査中、この事業に参加したことがきっかけとなり、帰国青年の人生が大きく転換した例に数多く遭遇した。青年招へいの同窓会がJICAの他の研修事業の同窓会よりも遥かに活発なのはこのような人間的な要素が青年招へいに強いためと考えられる。援助として行われる限り、開発への効果に対するアカウントビリティを軽視することはできないが、一方で、参加者個人個人の人生にインパクトを与え続けてきた青年招へいのこれまでの在り方を大切にしたい。

第三に「国際交流を通じた人づくり」とは国際意識の喚起により、一国の発展のみならず、国際社会の調和ある発展を指向するものである。国際経済における相互依存関係は益々進展しており、一国の発展を考えるとときに隣国や地域全体、ひいてはグローバルな視点が必要とされるのは言うまでもない。特に、新規加盟国を迎え、また経済危機の試練を受けているアセアン諸国にとって、アセアンとしての共同体意識の涵養は重要な課題である。青年招へい事業は21世紀を担う青年達に政治的・経済的・文化的に密接に結びついた日本とアセアンの将来を国際的な視野に立って展望する機会を与え、また当初に意図した事ではないがアセアン内での青年国際交流の促進とアセアンとしての共同体意識の喚起に大きな貢献をしてきた。青年招へい事業のこうした特性を高く評価し、目に見えやすい技術協力にとらわれることなく、長期的・国際的視野に立った事業の運営が望まれる。

第四に「国際交流を通じた人づくり」は援助供与国・受け入れ国双方における人づくりに貢献するものである。青年招へい事業は日本人青年との合宿セミナーやホームステイを通じて、まさに「国民参加型」の運営形態になっており、アセアンからの青年ばかりではなく、日本の受入れ側にとっても異文化に触れ、国際情勢を学ぶ国際理解教育・開発教育の場になっている。また、援助の現場では、援助供与国と被援助国の真のパートナーシップの必要性が国際的に要請されている。青年招へい事業は青年が国境を越えて対等の立場で交流する場を提供することによって、国民レベルでのパートナーシップを構築していく役割を有している。

青年招へい事業の特性を再認識し、「国際交流を通じた人づくり」としてその目的を明確にすることによって、この事業は更なる飛躍を遂げることができるとする。そのための具体的な処方箋として以下のことを提言する。

### 3-2 各プログラム別提言

#### (1) 現地オリエンテーション

現地オリエンテーションは現在3日間から4日間の日程で、相手国の送出し機関と同窓会の協力の下に行われている。近年には短縮の方向にあったが、例えば日本国内での共通プログラムの日程を削減しても、現地オリエンテーションはせめて1週間ほどに長期化すべきであると考えられる。その理由として、第一に特に日本語研修や日本に関する講義のような座学の場合、見学や交流と違って、必ずしも日本にいななければならないわけではなく、送出し国の日本研究者

や現地に在住する日本人を講師として活用することによって、有効なプログラム運営が可能であることが挙げられる。共通プログラムでの講義においては通訳が必要な場合が多く、また優秀な通訳の確保には限界がある。現地の日本研究者や在住日本人を講師とすることは通訳の必要性を少なくし、また送出国との関係性と比較において日本のことを学べ、青年が帰国してからも現地での日本研究者・日本人とのネットワークを築くきっかけにもなる。第二に滞在費などの費用が日本で行うより節減でき、費用対効果が大いことが挙げられる。ODA予算全体が削減される中、青年招へい事業においてもコストを意識した効率的な運営が求められており、現地で行える内容に関しては日本国内のプログラムから移行していくことが効率的といえる。第三に現地オリエンテーションは送出国機関や同窓会のイニシアチブによって行われており、本事業に対する送出国機関のオーナーシップ意識を醸成し、同窓会の活動を活性化していくためにも、現地オリエンテーションの長期化は有効であると考えられる。特に同窓会の活動にとって現地プログラムは新しい同窓会と同窓会が触れ合える貴重な機会である。

アセアンにおいては同窓会が育ってきたこと等から、昨年からは現地プログラムに対する日本からのコーディネーターの派遣が中止された。しかし、評価会のレポートによるとこれまで日本でのスケジュールについての十分な説明がなされなかったことに対して参加者の不満が多く、コーディネーターの派遣中止はさらに状況を悪化させるのではないかとの懸念もある。経費節減のためのやむを得ない措置であり、また送出国のオーナーシップを増す意味からも、敢えて派遣再開を提言するものではないが、十分な情報の提供などのフォローアップが必要だと考える。

## (2) 共通プログラム・分野別プログラム

共通プログラムの内容のうち、現地プログラムで対応できるものはそちらに移し、短縮することができると思う。また、分野別グループ編成を行っていることから、日本についての一般的な理解を促進するためのプログラムにおいても、分野別の観点から取り組む方が効果的と考えられる。共通・分野別共、座学の部分については参加者の評価は厳しく、評価の高い訪問見学などの参加型を中心に、日本に滞在することによってしかできないことに重点を置くべきであろう。

特に強調したいのは、共通・分野別プログラムにおける日本人青年の参加促進である。大阪府青少年活動財団が行っているアクションリサーチプログラムが良いモデルとなりうる。日本人参加者を従来アセアン側参加者を対象として

いる講義や視察に参加・同行させることにより、国際交流の機会を飛躍的に増加させ、日本人に対して発信力のある国民参加型の運営形態を更に発展させることができる。また、研修成果の充実のためにも、効果が期待でき、他の実施機関に対しても奨励していくべき模範例と考えられる。

分野別プログラムの効果的運営は実施協力団体の専門性に大きく依存している。今後、新規に専門性の高い実施協力団体を発掘していくことが強く求められている。

### (3) 地方プログラム

「国際交流を通じた人づくり」を国民参加型で実現していくためには、地方プログラムの充実が欠かせない。そのためには第一に都内プログラムを運営している団体と地方プログラムを運営している団体の緊密な協力関係が必要である。この2団体の関係は元来一方が一方を指導する立場にあるわけではなく、対等のパートナーとしてプログラムの運営に協力していく形態が理想である。そのためにはこの2団体のマッチングにJICAが十分な配慮を行い、円滑なコミュニケーションを促進させることが必要であると考えられる。地方でのプログラムも都内団体のプログラムコーディネーターが担当するのは問題だとする意見もある。一貫性をもたせることも大切であるが、能力のある地方団体は独自にプログラムコーディネーターをもち、プログラムの企画に携わることができるようにすべきである。

また、現在一部のプログラムで行われているような首都圏以外の実施協力団体に全般的に委託する形態は評価も高く、今後増加させていくべきであろう。

第二に地方プログラムに対しては日本人に対する開発教育的な要素を促進することを提言する。開発教育は国際協力の実施団体であるJICAが積極的に取り組まねばならない課題であり、日本人が途上国の人たちと対等に接するこのプログラムが、開発教育において有しているポテンシャルは大きい。例えば学校訪問をすべてのグループで行うことにすると、相当に大きな量的効果が期待できる。

### (4) 合宿セミナー

合宿セミナーは参加者に最も意義のあるプログラムの一つとして評価されている。しかし、期間はほとんどの場合、二泊三日の短期間で参加者からは長期化の要望が強い。長期化には日本人参加者の確保の困難などの問題があるが、「国際交流を通じた人づくり」を推進し、日本人に対する発信力の強化にも資す

るため、可能な範囲での長期化もしくは複数化はぜひとも検討すべき課題である。また、合宿セミナーの内容についてもスポーツ交流のようなレクリエーション的交流ではなく、専門分野についての意見交換に十分な時間を割くなど、内容の高度化が求められている。

日本人参加青年の確保もぜひとも必要なことである。そのためには専門性の高い実施協力団体の開拓とあわせて、日本人参加者の募集にJICAも青年海外協力隊の募集で培った広報技術とネットワークを積極的に活用し、ホームページ、主要新聞紙上で公募を行うなど、特別な配慮を行いたい。この際、関心のある日本青年が各実施団体に応募する形式では、各団体の参加者選考の方法が異なり、必ずしも公募していない実施団体がある、また実施団体を渡り歩くりピーターを防ぐことができないなど問題もある。例えば、日本人参加者募集の一部を日本国際協力センターに委託するなどの方法で参加希望者のプールを作り、対応していくことも可能なのではないか。これは日本人参加者の同窓会の継続的な運営に道を開く可能性もある。

第二に日本人の複数回参加者を活用してプログラムの運営・企画に取り組んでもらうことも検討したい。複数回参加する日本人が多すぎるのは公正な機会提供のためには問題であるが、必ずしも全面的に否定的な見方をすべきではない。例えば日米学生会議のように前年の参加者は翌年の受入れの主戦力となる合意があれば、複数回参加者の経験は生かされると考えられし、実際実施協力団体の中には複数回参加者のリーダーシップを頼りにしているところもあるのは事実である。いずれにしる回数制限は設け、複数回参加者の割合を全体の2割とするなどの目標を実施協力団体に対して引きつづき求めていく必要がある。

青年招へい事業合宿セミナーは一般の日本人にとってJICAの事業に参加できる数少ない機会の一つである。国民参加型の国際協力が叫ばれる中、ぜひともより多くの日本人にその存在を知ってもらい、途上国・国際協力に対して関心をもってもらうきっかけとしたい。合宿セミナーの日本人参加者募集・広報に力を入れていくことは本事業の質を上げるだけではなく、本事業に対する国民的理解と協力を得ていくためにも必要なことである。

#### (5) ホームステイ

ホームステイも合宿セミナーとともに参加者に人気のあるプログラムである。長期化への要望も強いが、現実的には困難であろう。ホームステイの受人

れ家庭の募集に関しても地方の実施協力団体にJICAが広報活動などについて協力する必要がある。また、一部のプログラムで行われているような参加者と同業種のホームステイ先を手配するなどの努力は「国際交流を通じた人づくり」を推進するために効果的な方法であると考えられ、奨励したい。

受入れ家庭に対して謝金を支払うかどうかについては議論の分かれるところである。基本的にボランティアで行うことはよいが、食事や交通費などの実費は配慮する必要がある。謝金を払うかどうかよりも、ホームステイした青年が帰国後必ず礼状を出すように同窓会を通じて呼びかける・郵便代を援助する、というような工夫の方が継続的に受入れを行い、国際交流の実をあげるために有効なのではないだろうか。

#### (6) 見学旅行

広島や京都の訪問は従来人気があったが、寺社訪問には比較的厳しい評価があり、予算削減のなか、今後原則的にメッセージ性の高い広島訪問を優先させることになったことは評価したい。その際、JICAの国際センターの利用率を上げるため、その使用を実施協力機関に奨励しているが、効率的とは言い難い。もしどうしても必要であれば、JICAセンターに滞在する他の研修生との交流の機会を設けるなど、プラスへ転換させる配慮を希望する。

#### (7) アフターケア事業

アフターケアチームの派遣については、派遣目的を明確にし、従来の一部経費負担方式ではなく、JICAが公式に派遣するかたちに改める必要がある。これまでは再交流と評価調査がアフターケアチームの目的とされ、招へい事業の日本国内関係者へのインセンティブ供与や事業改善に重きが置かれた。しかし、これからは同窓会組織との有機的な連携を進めていくためにこうした機会は利用されるべきであると考え。特に日本側同窓会が全体としては未整備なことから、日本によって行われているプログラムであるにもかかわらずアセアンでの同窓会交流活動が日本抜きで進められているという奇妙な現状が存在している。これを緊急に改めていくためには、日本代表団（名称についてもアフターケアチームから日本側同窓会を想定したものに変更すべきである）の派遣をアセアン同窓会の交流連絡会参加を目的としたものとする必要がある。この際、派遣目的から調査を外し、実施協議や本来の評価調査と区別するべきであろう。

また、従来「Dear Friends」誌においては、旧交を温めることに比重が置か

れていたが、これは帰国青年と日本の結びつきを保ち、その絆を更に強くするという観点では効果があったと考えられる。しかし今後はそれにとどまらず、帰国青年をJICA事業関係者として明確に捉え、JICA関連の最新情報を積極的に提供し、帰国青年を巻き込んでいくことが求められる。形態としては、情報誌の配布だけではなく電子メールやホームページなどインターネットを活用して双方向的な情報交流の場を築いていくべきであろう。

有効なアフターケア事業を実施するためには帰国青年の最新かつ正確な名簿を作成することが欠かせない。また、帰国青年のネットワーク・人材データベースが構築されれば、帰国青年を人的資源として改めてJICA事業に取り込み、他のスキーム（プロジェクト方式技術協力、無償資金協力、開発調査、専門家派遣、青年海外協力隊との連携など）において重要な役割を果たしてもらう可能性は大きい。同時に、“終身的”なJICA事業関係者としての取り扱いを考慮する必要がある、例えば日本国内のJICAセンターを研修員と同じ料金で利用できるなどの特典を与えるなどの措置も検討されるべきであろう。

### 3-3 各実施機関別提言

#### (1) 送出し機関

各国の参加者募集・選考については、国によってばらつきがあるが、公務員に偏るなど、国民的な公募が行われていないところもある。JICAも実施協議などを通じて公正な対応を要請し、できうればJICA現地事務所の関与を促進すべきである。また、参加者選考・現地オリエンテーション等に同窓会が協力して成果をあげている国も多く、そうでない国の送出し機関（政府）に対してはJICAとして同窓会との協力を申し入れるべきであろう。

#### (2) 実施協力団体(中央・地方)

これまで、大過なく長期に渡ってプログラムを運営してきた実施協力団体の能力は相当に高いといえる。また、これまでの蓄積は将来の事業運営においても十分に生かしていかなくてはならない。しかし、参加者のニーズに応え、合宿セミナーや専門分野研修の高度化を行っていくためには、地方・都内の枠を超えて新たに専門性の高い実施団体を開拓していく必要がある。

また、日本国際協力センターのコーディネーター、都内実施協力団体プログラムコーディネーター、地方実施協力団体の間での責任・役割分担が必ずしも

明確になっておらず、摩擦が生じることがあるようである。摩擦を回避するためには役割分担の明確化とともに、関係者間での情報交換の促進、受入れ手法についての知識を共有するためのマニュアル整備、コースリーダー制も含めた指導体制の検討が必要だと考える。

### (3) 同窓会

帰国青年による同窓会については、今後はいわゆる拡大アセアンの枠組による支援を考える必要がある。すなわち、シンガポールやブルネイといった「卒業国」の同窓会に対する支援のあり方や、ヴィエトナム等新加盟国のAJAFA21への正式参加により、同窓会のレベルにおいてもこの事業がアセアン内での交流を促進しうる点を評価・検討すべきである。また、従来の同窓会の活性化も重要な課題であり、同窓会の設立・登録基準及び助成基準の明確化がJICAに求められると同時に、各同窓会自体も自国の帰国青年の積極的な参加を得るために、地方出身の青年を含め会員に何を還元できるかの観点から、同窓会の目標・理念や活動内容を見直す必要がある。今後は、JICAからの助成金に依存する体制から脱却し、経常費の支出を抑える努力を促すとともに、例えば現地オリエンテーションプログラムの実施、帰国青年名簿の作成管理、Dear Friendsの送付作業等は業務委託し、JICAが必要経費を支出することが検討できるのではないか。これらは、同窓会をJICAの「人的資源」として活用する観点からも望ましいと思われる。

さらに、帰国青年による同窓会に対し、カウンターパートたる日本側同窓会を早急に設立する必要があると思われる。本来、本事業のフォローアップは、日本を含む各国同窓会が一緒に行うことが重要であり、特に再交流を目的とするホームステイ等は、送り手・受け手となる組織がしっかりしていれば効率的・効果的に実施できるものである。本体事業の実施主体たるJICAからは独立した組織として、実施協力団体のみならず、合宿セミナー参加者、ホームステイ受入家庭等、本事業に関係した日本人が自由に参加できる日本側同窓会の設立は緊急の課題であり、JICAには、そのための情報提供や他の交流事業（青年の船、等）の同窓会の活動状況の調査等の基盤づくりが求められる。

## 3.4 プログラム全体に関わる課題

### (1) 分野グループの再検討

分野別グループについてはこれまでも検討がなされ工夫が重ねられてきた。



しかし、例えば社会開発グループの関心対象が多様すぎて、ニーズにあったプログラムを作成できないなどの声の実施機関から聞かれる。ある程度ターゲットを絞った人選を行うためにはフェーズで決めた分野の大枠に対して、例えば社会開発グループは年によって医療関係従事者と福祉関係従事者を分けるような、各年毎にテーマ性をもたせるような対応が必要であろう。

その上で、新しい分野グループとして障害者グループ、あるいは障害者福祉グループの新設を提言したい。アセアンと日本の健常者の交流は経済の国際化とともに飛躍的に拡大してきたが、その反面、途上国において身体に障害をもった人々の国際交流の機会是非常に限られている。しかし、一方で彼らが日本において同じく障害をもった人々と交流し、日本の障害者福祉・障害者運動を研修することは大きな意義があると考えられる。障害者のみによるグループを招へいすることが困難であるとするならば、障害者福祉に携わる青年を構成員の一部とするなどの工夫をすることができる。

## (2) 国別グループの再検討

元来、本事業は創設時にアセアン内での交流を目標の一つとしていたわけではないが、これまでそうした交流の場をしかも日本で提供することによってアセアン青年の共同体意識の醸成に重要な役割を果たしてきたことは今回の帰国青年に対するアンケート調査で明らかになった。本事業のそうした実績を評価し、本事業がODAによって行われるユニークな青年国際交流事業として「国際交流を通じた人づくり」を達成するために、本事業の目的の一つとして、アセアン内での交流・共同体意識の醸成を新たに取り入れることを提言する。具体的な方向性として次のことが考えられる。

### ・アセアン混成グループの重点化

アセアン混成は特にこれまでアセアン間交流の重要な場であった。運営上の困難はあるが、これから新アセアンの国々にとってこのような機会を得ることは非常に大切であり、アセアン混成の重要度も増している。国別グループの必要性（例えば、語学の弱い青年に機会を与える）を認識しながらも、参加者定員に関してアセアン混成の比重を重くする方向を取るべきである。

### ・援助卒業国のアセアン混成グループにおける縮小継続

これまでのアセアン間交流の実績を考えると、援助卒業国のブルネイ、シンガポールをアセアン混成グループからはずしてしまうことのデメリットは非常に大きい。また、ここまで発展したシンガポール、ブルネイの同窓会の継続性

を維持するためにもアセアン混成における援助卒業国の継続を強く提言したい。

・国別グループの日本国内プログラムにおけるアセアン間交流の機会提供のシステム化

国別グループにおいても特にシステム化されていないにもかかわらず、パーティーや宿泊場所を通じてアセアン内の交流が行われてきた。意図的にこのような場を設けることでアセアン内の交流が飛躍的に改善されるのではないだろうか。

・新アセアン加盟国と従来加盟国を対象としたプログラムの有機的統合

新アセアン加盟国であるベトナムとラオスはアセアン混成グループに組み込まれておらず、新アセアンの国にとって重要な意味をもつ他のアセアン諸国との交流機会の提供は本事業の枠組みでは行えていない。新アセアンの国々にとっては、アセアン混成グループばかりではなく、国別グループにおいても新アセアン加盟国と従来のアセアンのプログラムが異なっていることからの不都合は計り知れない。新アセアンの国には日本が同じアセアン加盟国を差別しているという意識まで出てきており、外交的にも好ましい状況ではない。このようなことから、旧アセアンと新アセアンのプログラムを有機的に統合していくことが強く望まれている。

・新アセアン加盟国の同窓会設立支援とAJAFA21への加盟促進

新アセアンの国々においては未だ同窓会が正式に設立されていない。社会主義国であることから民間団体の設立には困難もあるが、その設立とアセアンの横断的な組織であるAJAFA21へ加盟を支援していくことは今後の本事業の総合的發展のためにも重要なことである。

## 結びに代えて（団長所感）

私は13年前、この事業が創設したばかりのころに日本人合宿セミナーの参加者としてフィリピンの青年を迎えたことがある。その時のことは今でもはっきりと覚えているし、参加者の幾人かとは現在も連絡をとっている。この経験はその後の私の人生に意外なほど大きな影響を与えた。今回、この事業の評価調査の機会を与えられ、肝に銘じたことは自分のそうした個人的な体験に感情的に引きずられないようにしなければならないということであった。しかし、果たしてそれが成功であったかどうか。今回の調査を通じて、私は100名を超えるアセアン・日本の人々と出会うことになった。彼らとの語らいの中から本事業が帰国青年・日本青年・地域社会に対していかに大きな影響を与えてきたかを改めて認識することになった。また、本事業の参加者ばかりではなく、その運営に携わった人々が深い愛情をもってこの事業に関わってきたかを実感することもできた。他方で、この事業のシステム上の問題を明確にし、その対処策を提言に盛り込んだつもりである。

しかし、この事業の成否は結局「ひと」にかかっているのである。現地オリエンテーションで熱心にこのプログラムの素晴らしさを伝えようとする同窓会のメンバー、青年にあったプログラム作りをしようと懸命な実施協力団体の職員の方々、宗教上の食事制限に気を砕くホームステイの受入れ家庭、来日青年と語り明かす合宿セミナーの日本人参加者。そうした人々の情熱と誠意に支えられて、この事業は14年間行われてきたのである。「ひと」のために「ひと」によって作られてきたこの事業の在り方をこれからも大切にしたい。

本事業は14年前に「21世紀のための友情計画」としてスタートした。21世紀もうそこまで来ている。21世紀における日本と途上国のパートナーシップを築く。本事業が、そうした志を高々と掲げ、21世紀を迎えることを強く望む。



## 附属資料

1. 現地調査日程
2. 主要面談者
3. 青年招へい事業パンフレット
4. 同窓会への調査委託内容
5. アセアン6カ国アンケートの集計
6. 同窓会作成の評価レポート (別冊)

### インドネシア

Keluarga Alumni Program Persahabatan Indonesia Jepang Abad 21 (KAPPIJA-21); "The Evaluation Study on the Youth Invitation Programme in six ASEAN Countries, Indonesia"

### シンガポール

ASEAN-JAPAN Friendship Association for the 21st Century, Singapore; "Results of the Survey on the Friendship Programme (Singapore)"

### タイ

Friendship Youth Alumni Association Thailand; "Evaluation Study 1998, The Friendship Programme for 21st Century"

### フィリピン

Philippine ASEAN-Japan Friendship Association for the 21st Century; "Evaluation Study on The Youth Invitation Programme in The Philippines"

### マレーシア

Persatuan Alumni Program Persahabatan Abad ke 21 ASEAN-Japan, Malaysia (PAMAJA); "Evaluation Study on The Youth Invitation Programme (1984 -1997) "

### ブルネイ

Pertubuhan Alumni Abad k-21 (PERTAB21); "Report of The Evaluation Study of The Youth Invitation Programme",

附属資料 1

特定テーマ評価（青年招へい）現地調査日程

|    | 月日    | 曜日 | 行程   | 面接者   | 宿泊地          |
|----|-------|----|--|---|--------------|
| 1  | 3月1日  | 日  | 東京 (9:45発JL741)<br>マニラ (13:25着)  |   | マニラ          |
| 2  | 3月2日  | 月  | 事務所打合せ<br>帰国青年ヒアリング<br>窓口機関 (DFA) ヒアリング  | 後藤所長、石賀職員 (担当)<br>別添リスト参照<br>Mr.J.Jarasa ; Assistant Secretary他             | 同上           |
| 3  | 3月3日  | 火  | 同窓会 (PAJAF A-21) ヒアリング<br>事務所打合せ/懇親会   | Ms.E.G.Lawas ; 同窓会長他<br>黒柳次長、石賀職員   | 同上           |
| 4  | 3月4日  | 水  | 帰国青年ヒアリング<br>マニラ (15:00発TG621)<br>バンコク (17:15着)                                | 別添リスト参照   | バンコク         |
| 5  | 3月5日  | 木  | 事務所打合せ<br>日本大使館打合せ<br>窓口機関 (NYB) ヒアリング<br>バンコク (15:15発TG114)<br>チェンマイ (16:25着) | 鷺見次長、大川職員 (担当)<br>木暮一等書記官、鷺見次長、大川職員<br>Ms.U.Pichitakul ; Secretary General他 | チェンマイ        |
| 6  | 3月6日  | 金  | アセアン同窓会交流連絡会 (AJAFA-21)  | 別添リスト参照   | 同上           |
| 7  | 3月7日  | 土  | アセアン同窓会交流連絡会 (AJAFA-21)  | 同上  | 同上           |
| 8  | 3月8日  | 日  | チェンマイ (10:15発TG103)<br>バンコク (11:25着)<br>議事録とりまとめ、資料整理                          |   | バンコク         |
| 9  | 3月9日  | 月  | 窓口機関 (NYB) ヒアリング・調査報告<br>NGO等訪問・資料収集   | Ms.S.K.N.Ayudhdhaya ; Deputy S.G他<br>TPA僱駐在員他                               | 同上           |
| 10 | 3月10日 | 火  | 資料整理   |   | 同上           |
| 11 | 3月11日 | 水  | バンコク (12:00発MH785)<br>クアラルンプール (15:05着)<br>事務所打合せ                              | 西牧所長、飛田職員 (担当)  | クアラル<br>ンプール |
| 12 | 3月12日 | 木  | 窓口機関 (PSD) ヒアリング<br>同窓会 (PAMAJA) ヒアリング   | Mr.Ramse Bin Ablah ; 東方政策課長他<br>Mr.A.Kahman Bin Abdul Kazak ; 同窓会<br>長他     | 同上           |
| 13 | 3月13日 | 金  | 関連機関訪問・資料収集<br>クアラルンプール (23:00発JL724)  | AOTS河合所長他   | -            |
| 14 | 3月14日 | 土  | 東京 (6:20着)   |   |              |

特定テーマ評価（青年招へい）面接者

| 国名                      | 氏名   | 所属   | 種別                 | 参加年度、グループ等 |
|-------------------------|--|--|--------------------|------------|
| フィリピン                   | Ms.Vilma Cervantes   | Development Bank of Philippines  | 婦国青年               | 97経済A      |
|                         | Ms.May Sta.Maria   | First Choice Food Cooperation  | 婦国青年               | 96経済A      |
|                         | Ms.Mellanie P. Daracan   | Asia Brewery Inc.  | 婦国青年               | 97経済B      |
|                         | Mr.Romy Teruel   | Cotton Research and Development Institute  | 婦国青年               | 97経済A      |
|                         | Mr.Darcy F. Lopez  | Philippines Airlines   | 婦国青年               | 96経済B      |
|                         | Ms.Indira Banares  | ANZ Bank   | 婦国青年               | 96経済B      |
|                         | Ms.Wilhelmina Villarico  | Department of Trade and Industry   | 婦国青年               | 88青年指導者    |
|                         | Ms.Helen Alobba  | Department of Agriculture  | 婦国青年               | 95農業       |
|                         | Mr.Juanito Jarasa  | Assistant Secretary, Northeast Asia Division, Office of Asian and Pacific Affairs, Department of Foreign Affairs | 窓口機関               |            |
|                         | Mr.Ernesto C. Castro   | Director, Northeast Asia Division, Office of Asian and Pacific Affairs   | 窓口機関               |            |
|                         | Mr.Roberto R. Reyes  | Office of Asia and Pacific Affairs   | 窓口機関               |            |
|                         | Ms.Evangelina G. Lawas   | President, PAJafa-21   | 同窓会                |            |
|                         | Dr.Joy S.De Leon   | External Vice President, PAJafa-21   | 同窓会                |            |
|                         | Mr.John Y.Atilano  | Internal Vice President, PAJafa-21   | 同窓会                |            |
| Ms.Mary Ann T. Coronado | Treasurer, PAJafa-21   | 同窓会  |                    |            |
| Ms.Jacqueline I. Ortiz  | Secretary, PAJafa-21; JICA staff                                     | 同窓会  |                    |            |
| タイ                      | Ms.Urainwan Phichittakul   | Secretary General, National Youth Bureau   | 窓口機関               |            |
|                         | Ms.Sienoi Kashemsanta Na Ayuddhaya                                   | Deputy Secretary General, NYB  | 窓口機関               |            |
|                         | Ms.Maliwan Kullawanjaya  | Senior Youth Expert, NYB   | 窓口機関               |            |
|                         | Ms.Usanee Kangwanjit   | Director of External Relations Div. NYB  | 窓口機関               |            |
|                         | Ms.Wimolrat Ratchukool   | Chief of International Relations II, NYB   | 窓口機関               |            |
|                         | Ms.Daruni Thepchalerms<br>Mr.Decha Sigvanich<br>Ms.Jitjanya Permpatr | Director of Training Division, NYB<br>President, FYAA<br>Secretary, FYAA   | 窓口機関<br>同窓会<br>同窓会 |            |
| マレーシア                   | Mr.Ramse Bin Ablah   | Section Head, Look East Policy, Training Division, Public Service Department                                     | 窓口機関               |            |
|                         | Ms.Junaidah  | Training Division, PSD   | 窓口機関               |            |
|                         | Mr.Zainar  | Training Division, PSD   | 窓口機関               |            |
|                         | Ms.Laily   | Training Division, PSD   | 窓口機関               |            |
|                         | Mr.Abdul Rahman Bin Abdul Razak                                      | President, PAMAJA  | 同窓会                |            |
|                         | Mr.Menet Bin Saad<br>Mr.Mohammad Bin Salleh                          | meNET Consultant Group<br>Research coordinator, Universiti Putra Malaysia  | 同窓会<br>同窓会         |            |
| ブルネイ                    | Mr.Haji Mohd Noor Bin Haji Salleh                                    | President, PERTAB21  | 同窓会                |            |
|                         | Ms.Molly Yap   | Treasurer General, PERTAB21  | 同窓会                |            |
|                         | Mr.Haji Mohd Taib Bin Haji Osman                                     | Advisor, PERTAB21  | 同窓会                |            |
| インドネシア                  | Mr.Mohamad Al-Arief  | Secretary General, KAPPIJA-21  | 同窓会                |            |
| シンガポール                  | Mr.Christpher Chan   | President, SAJafa-21   | 同窓会                | 86青年指導者    |
|                         | Ms.Maureen Goh   | Secretary, SAJafa-21   | 同窓会                | 88公務員      |
|                         | Mr.Ong Choon Peng  | Treasurer, SAJafa-21   | 同窓会                | 89青年指導者    |
| ヴェトナム                   | Ms.Nguyen T.Hoang Van  | Programme Officer, CYDECO  | 同窓会                |            |













**TERMS OF REFERENCE  
FOR  
THE EVALUATION STUDY ON THE YOUTH INVITATION PROGRAMME IN SIX ASEAN  
COUNTRIES**

**I. OVERALL OBJECTIVES OF THE STUDY**

The Study aims:

- (1) To evaluate achievements and impacts of the Youth Invitation Program in six (6) ASEAN countries, namely Brunei, Indonesia, Malaysia, the Philippines, Singapore and Thailand
- (2) To make suggestions for the program content
- (3) To make suggestions for the alumni activities and JICA's support system
- (4) To guide the general direction of the program in the future.

**II. SCOPE AND METHODOLOGY OF THE EVALUATION STUDY**

The Study will be implemented in line with the following procedures:

- (1) Review of existing reports and documents related to the program by Japanese experts in Japan
- (2) Interviews with staffs of implementing organizations by Japanese experts in Japan
- (3) Surveys for all the ex-participants of the program by the Alumni Associations in six (6) ASEAN countries
- (4) Interviews and qualitative evaluations of the program by the Alumni Associations in six (6) ASEAN countries
- (5) Submission of reports by the Alumni Associations to JICA
- (6) Field Study by Japanese experts in Malaysia, the Philippines and Thailand
- (7) Analysis of all the information and data gathered through the above procedures by Japanese experts in Japan
- (8) Completion of the evaluation report by Japanese experts in Japan.

**III. SCOPE OF WORK FOR THE ALUMNI ASSOCIATION IN SIX ASEAN COUNTRIES**

For a part of the evaluation study, the Alumni Associations in six(6) ASEAN countries are expected to:

- (1) Form a committee for this evaluation project. Although the committee members are volunteers, they can be paid adequately from the grant that JICA is going to provide. If the committee decides, it can also hire consultants from outside.

- (2) Conduct a concrete survey sending questionnaires to all the ex-participants of each country. Although each Alumni Association is expected to put all the questions in Appendix C in the questionnaire, each alumni is welcome to include additional questions regarding the program and alumni activities. If necessary, they should be translated into the local languages. Postal stamps should be provided for ex-participants to return the questionnaires.
- (3) Make a summary of the statistics for each question of the survey and analyze the results.
- (4) Beside the survey, organize qualitative and creative evaluations of the program and the alumni activity.
- (5) Make a draft report of less than 200 pages in English and submit three copies of the report to the JICA representative office in each country by February 15th, 1998. The report should include the following content:
  - a. Executive Summary
    - Outline and conclusion of the report to be summarized in five (5) pages
  - b. Description of the process of this evaluation project
    - List of the evaluation committee members' Records of Meetings
    - List of collected data and information
    - Daily activity report of the committee
  - c. Country specific information including:
    - Overview of the international youth exchange program in each country
    - Description of the history, organization and activities of each Alumni Association
    - Procedure for nomination of participants in each country
    - Organization of the pre-departure training in each country
  - d. Survey results including:
    - Number of questionnaires sent and returned
    - Simple statistics of all the questions
    - Analysis of the statistics
  - e. Analysis of impact of the program regarding its contribution to:
    - International understanding and promoting friendship between ASEAN and Japan
    - International understanding and promoting friendship among ASEAN countries
    - Participants' professional growth
    - Participants' individual growth
 Please identify any other positive impacts of the program and explain the achievements
  - f. Situation analysis, evaluation and suggestions regarding:
    - Procedure for nomination of participants
    - Preparation for participation of the program (including pre-departure orientation program)
    - Duration and content of each sub-program in Japan (lectures, visits, home stay, seminars)

etc.)

- Cost effectiveness of the program
- Alumni activities and JICA's after-care for ex-participants

When these evaluations are made, please determine efficiency, effectiveness, impact, sustainability and constraints of the program referring to the survey results and discussions among the Alumni members.

- g. General suggestions for the future of the program
- (6) Give a presentation on the contents of the report at the Executive Annual Council Meeting of AJAFA-21 to be held in Thailand in March, 1998. For reference, bring and distribute five (5) copies of the report at meetings with other Alumni Associations.
  - (7) Make a final report, if any comments are made by Japanese experts and other Alumni Associations at the above meeting, and submit to the JICA representative office in each country by March 31st, 1998.
  - (8) Assist the Japanese experts with their interviews with ex-participants (selection of interviewees and arrangement of the interviews) during their visit in Malaysia, the Philippines and Thailand in March, 1998.

Further information concerning this evaluation study may be obtained from:

Masahiko DOI (Mr.) Office of Evaluation and Post Project Monitoring, JICA

TEL No.: 81-3-5352-5382 FAX No.: 81-3-5352-5149

E-Mail Address: masadoi@jica.go.jp

Keiko SANO (Ms.) Youth Invitation Division, Training Affairs Department, JICA

TEL No.: 81-3-5352-5403 FAX No.: 81-3-5352-5018

E-Mail Address: skeiko@jica.go.jp

Questionnaire for Ex-participants of the Youth Invitation Program

F1. Your Name

F2. Your Home Address

F3. Your mailing address of this letter was: 1. Correct 2. Incorrect

F4. Your Tel. Number (if you have one)

F5. Your Fax Number (if you have one)

F6. Your E-mail Address (if you have one)

F7. Sex

F8. Your Birth Year

F9. Your Nationality

F10. Present Profession

(Please write your occupation, organization and position specifically.)

F11. The year you participated in the Friendship Programme for the 21st Century  
(19\_\_)

F12. The professional group you participated in (EX. Education, Civil Servant I)  
(If you participated in any ASEAN Component Group, please state.)

Q1. How did you learn of the program? (Multiple Answer)

1. Through the press
2. From government offices
3. From JICA representative office
4. From your work place
5. From ex-participants or Alumni Association
6. Other (Open Answer)

Q2. What do you think about the selection process of the participants? (Single Answer)

1. Fair
2. Not fair
3. Do not know

If you have any suggestions for the selection process of participants, please write. (Open Answer)



Q3. Why did you participate in the program? (Please choose A, B, C or D for each item. A: Agree B: Partly Agree C: Disagree N: No Answer)

- |   |         |
|---|---------|
| 1. To visit Japan   | A B C N |
| 2. To make friends with someone from Japan                      | A B C N |
| 3. To make friends with someone from your own country or region | A B C N |
| 4. Interested in international exchange programs                | A B C N |
| 5. To improve your professional knowledge                       | A B C N |
| 6. Advised by your organization                                 | A B C N |
| 7. To win honor   | A B C N |

Any other reasons (Open Answer)

Q4. How have you benefited from the program (Please choose A, B, C or D for each item. A: Agree B: Partly Agree C: Disagree N: No Answer.)

- |  |         |
|--|---------|
| 1. Could learn about the society of Japan                              | A B C N |
| 2. Could learn professional knowledge in your field                    | A B C N |
| 3. Could promote mutual understanding with Japanese                    | A B C N |
| 4. Could deepen interest in international issues                       | A B C N |
| 5. Could be proud of your own country                                  | A B C N |
| 6. Could understand the importance of international exchange           | A B C N |
| 7. Has changed your way of thinking                                    | A B C N |
| 8. Could learn how to communicate with people from a different culture | A B C N |
| 9. Could learn how to act in good order as a group member              | A B C N |
| 10. Could advance your career  | A B C N |

Q5. What kind of activities in the program did you find most beneficial? (Please choose a maximum three (3) items.)

1. Lectures on Japan
2. Lectures on your professional field
3. Japanese language lessons
4. Visits related to your professional field
5. Observation Tour to understand Japan
6. In-House Seminars with Japanese youths
7. Home stay

Q6. How did your impression of Japan change after participating in this program?

1. Much better
2. Better
3. Worse
4. No change
5. Don't know

For those who chose 1,2 or 3, in what way did you change your impression? (Open Answer)

Q7. Are you still in touch with the people you met in the program? If so, with what kind of people do you still keep in touch? (Multiple Answer)

1. No, you are not in touch with any.
2. Participants of your own country
3. Japanese participants of the seminar
4. Participants of other countries
5. Host family
6. Japanese who you met during your visits (other than the seminar or homestay)
7. Program staff in charge

Q8. Which do you think more important or better for the program? (Please choose a or b)

1.
  - a. Providing professional knowledge in the participants' field

VS.

  - b. Promoting international exchange
  
2.
  - a. Maintaining the current balance of the programs in Tokyo and local areas in Japan

VS.

  - b. Increasing the programs in local areas and regional cities in Japan

Q9. Do you receive "Dear Friends" twice a year?

1. Yes
2. No

If Yes, what kind of articles do you think "Dear Friends" should include? (Open Answer)

Q10. Are you participating in the alumni activities of the program in your country?

1. Yes, actively
2. Yes, sometimes
3. No

If No, why? (Multiple Answer)

1. Because you are too busy,
2. Because you do not live in the capital city.
3. Because there is no information about the Alumni Association.
4. Because the activities of the Alumni Association are not interesting.
5. Because the Alumni Association is closed to new participants.
6. Others/ (Open Answer)

Q11. What kind of activities do you think the Alumni Association should have in the future? (Multiple Answer)

1. Activities to establish a network among the members
2. Orientations for new participants of the program
3. International exchange activity with Japan
4. International exchange activity with other Alumni Associations in ASEAN
5. Activities for the development in your country
6. Activities for world peace
7. Activities for environmental issues
8. Activities to support people who need help

Any other ideas (Open Answer)

Q12. What do you expect from JICA in supporting the Alumni Association? (Open Answer)

Q13. Please write suggestions or ideas for future programs. (Open Answer)

Thank you very much for your cooperation!

アセアン6ヶ国アンケート集計表

表2-2 アセアン6ヶ国アンケート集計のデータ・ベース (単位：人)

|                | フィリピン | タイ    | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ  |
|----------------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|
| 1帰国青年 (96年度まで) | 1,941 | 1,945 | 1,944 | 1,937  | 1,936  | 570   |
| 2発送数 (97年度含む)  | 1,200 | 900   | 700   | 1,200  | 2,061  | 623   |
| 3返送数           | 229   | 276   | 167   | 531    | 410    | 101   |
| 4有効回答数         | 229   | 276   | 167   | 380    | 410    | 101   |
| 5有効回答率 (4/2)   | 19.1% | 30.7% | 23.9% | 31.7%  | 19.9%  | 16.2% |

アセアン6ヶ国アンケート集計方法

|               | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|---------------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| Q1 複数回答/回答者数  | 322   | 442  | 167   | 198    | 425    | 175  |
| Q2 単回答/回答者数   | 220   | 276  | 167   | 197    | 415    | 101  |
| Q3 複数回答/回答者数  | 224   | 276  | 167   | 200    | 400    | 101  |
| Q4 複数回答/回答者数  | 224   | 276  | 167   | 198    | 415    | 101  |
| Q5 3つ回答/回答者数  | 246   | 842  | 167   | 200    | 1188   | 301  |
| Q6 単回答/回答者数   | 219   | 276  | 167   | 196    | 408    | 101  |
| Q7 複数回答/回答者数  | 651   | 722  | 167   | 199    | 1009   | 246  |
| Q8 単回答/回答者数   | 189   | 276  | 167   | 195    | 391    | 101  |
| Q9 単回答/回答者数   | 220   | 276  | 167   | 198    | 406    | 101  |
| Q10 単回答/回答者数  | 220   | 179  | 167   | 198    | 404    | 101  |
| Q11 複数回答/回答者数 | 378   | 1084 | 167   | 199    | 1229   | 426  |

表2-22 アセアン6ヶ国アンケート：Q1 どうしてこのプログラムを知ったか

|            | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|------------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1新聞報道      | 6.2   | 4.5  | 3.6   | 1.0    | 0.5    | 3.4  |
| 2政府機関      | 24.8  | 38.5 | 35.8  | 28.3   | 17.9   | 35.4 |
| 3JICA事務所   | 5.9   | 2.7  | 1.2   | 2.5    | 0.7    | 7.4  |
| 4職場        | 26.1  | 29.0 | 37.0  | 22.7   | 50.4   | 24.0 |
| 5同窓会、参加経験者 | 28.6  | 23.5 | 21.8  | 35.4   | 9.9    | 21.7 |
| 6その他       | 8.4   | 1.8  | 0.6   | 10.1   | 20.7   | 8.0  |

1) 複数回答。数字は%。

100 100 100 100 100 100

表2-21 アセアン6ヶ国アンケート：Q2 選考方法についてどのように思うか

|        | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|--------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1公平    | 83.2  | 55.1 | 89.0  | 53.8   | 69.9   | 62.4 |
| 2不公平   | 5.5   | 37.7 | 2.4   | 13.7   | 1.5    | 8.9  |
| 3わからない | 11.4  | 7.2  | 8.6   | 32.5   | 28.6   | 28.7 |

1) 単回答。数字は%。

100 100 100 100 100 100

表2-14、23 アセアン6ヶ国アンケート：Q3 参加の動機は何か

|             | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|-------------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1 日本訪問      | 89.3  | 89.1 | 90.3  | 96.9   | 87.6   | 75.0 |
| 2 日本の友人をつくる | 88.8  | 81.9 | 96.4  | 96.5   | 87.9   | 71.0 |
| 3 自国の友人をつくる | 68.8  | 62.3 | 35.8  | 86.4   | 73.5   | 43.0 |
| 4 国際交流      | 98.2  | 82.6 | 95.8  | 97.5   | 88.5   | 97.0 |
| 5 専門知識の研鑽   | 90.2  | 76.1 | 92.2  | 84.9   | 56.5   | 79.0 |
| 6 職場のすすめ    | 24.6  | 42.8 | 24.5  | 45.2   | 27.2   | 27.0 |
| 7 栄達        | 25.0  | 65.2 | 10.8  | 59.7   | 11.0   | 6.0  |

1) 各項目毎に Agree, Partly Agree, Disagree, No Answer の4段階で回答。本表では Agree と答えた人の%のみ記載

484.8 500.0 445.8 567.1 432.2 398.0

表2-19、24 アセアン6ヶ国アンケート：Q4 プログラムから得られたものは何か

|               | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|---------------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1 日本社会の理解     | 94.2  | 84.8 | 98.8  | 98.5   | 94.6   | 92.0 |
| 2 専門知識        | 66.1  | 41.3 | 86.7  | 77.4   | 30.6   | 57.0 |
| 3 相互理解        | 92.9  | 63.0 | 96.4  | 90.9   | 81.0   | 81.0 |
| 4 国際意識        | 84.4  | 31.9 | 86.7  | 62.3   | 56.4   | 66.0 |
| 5 国民意識        | 83.5  | 81.9 | 97.0  | 85.4   | 59.3   | 61.0 |
| 6 国際交流        | 94.2  | 71.0 | 95.2  | 93.5   | 80.1   | 80.0 |
| 7 視野の拡大       | 68.3  | 43.5 | 92.9  | 71.9   | 40.0   | 61.0 |
| 8 コミュニケーション能力 | 87.1  | 71.7 | 95.2  | 95.0   | 74.1   | 82.0 |
| 9 グループ活動      | 80.4  | 86.2 | 91.0  | 89.0   | 73.6   | 75.0 |
| 10 経験         | 59.8  | 34.1 | 90.3  | 52.0   | 12.7   | 42.0 |

1) 各項目毎に Agree, Partly Agree, Disagree, No Answer の4段階で回答。本表では Agree と答えた人の%のみ記載

810.7 609.4 930.2 815.9 602.5 697

表2-15、20、25 アセアン6ヶ国アンケート：Q5 プログラムで最も有益だったものは何か

|              | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|--------------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1 日本に関する講義   | 11.8  | 8.1  | 8.4   | 10.5   | 10.1   | 5.0  |
| 2 専門分野に関する講義 | 5.7   | 5.9  | 7.4   | 9.5    | 0.6    | 7.3  |
| 3 日本語学習      | 4.1   | 8.3  | 19.2  | 9.0    | 7.7    | 8.6  |
| 4 専門分野に関する視察 | 13.8  | 16.4 | 14.1  | 18.5   | 8.2    | 16.6 |
| 5 見学旅行       | 32.9  | 19.0 | 22.6  | 11.5   | 25.2   | 21.3 |
| 6 合宿セミナー     | 18.3  | 16.6 | 14.5  | 20.0   | 22.9   | 20.9 |
| 7 ホームステイ     | 13.4  | 25.7 | 13.8  | 21.0   | 25.4   | 20.3 |

1) 1～7の項目の中で3つの項目を選択。本表では各項目毎の得点数を全項目の得点数合計で除した%を記載。

100 100 100 100 100 100

表2-26 アセアン6ヶ国アンケート：Q6 プログラム参加後日本の印象がどう変わったか

|           | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|-----------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1非常に良くなった | 79.0  | 54.4 | 32.5  | 51.0   | 50.7   | 57.4 |
| 2良くなった    | 17.8  | 40.6 | 60.1  | 43.9   | 32.1   | 35.6 |
| 3悪くなった    | 0.5   | 0.0  | 1.8   | 0.5    | 0.0    | 0.0  |
| 4変わらない    | 2.3   | 3.6  | 3.1   | 2.6    | 14.7   | 4.0  |
| 5わからない    | 0.5   | 1.5  | 2.5   | 2.0    | 2.5    | 3.0  |

1) 単回答。数字は%。

100 100 100 100 100 100

表2-27 アセアン6ヶ国アンケート：Q7 プログラムで知り合った人との交流はあるかまた、どのような人と交流があるか

|              | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|--------------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1交流なし        | 8.8   | 2.2  | -     | 6.0    | 4.7    | 4.1  |
| 2自国の参加者      | 26.2  | 33.0 | 51.1  | 28.6   | 31.3   | 27.6 |
| 3日本人のセミナー参加者 | 17.7  | 13.9 | 9.1   | 12.6   | 18.7   | 14.2 |
| 4他国の参加者      | 8.1   | 4.7  | 5.0   | 11.6   | 6.1    | 15.4 |
| 5ホストファミリー    | 18.5  | 20.5 | 22.6  | 21.1   | 20.9   | 19.1 |
| 6その他日本人      | 9.8   | 15.8 | 4.5   | 11.1   | 8.1    | 7.3  |
| 7プログラムのスタッフ  | 10.9  | 10.0 | 7.7   | 9.0    | 10.1   | 12.2 |

1) 複数回答。数字は%。

100 100 100 100 100 100

表2-16 アセアン6ヶ国アンケート：Q8-1 カリキュラム編成の重点はどちらが好ましいか

|       | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|-------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1専門分野 | 44.4  | 45.7 | 21.1  | 41.0   | 14.6   | 40.6 |
| 2国際交流 | 55.6  | 54.4 | 78.9  | 59.0   | 85.4   | 59.4 |

1) 単回答。単位は%。

100 100 100 100 100 100

表2-17 アセアン6ヶ国アンケート：Q8-2 東京と地方でのプログラムの実施割合

|             | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|-------------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1現行と同じ      | 46.3  | 40.6 | 53.6  | 66.5   | 48.7   | 33.7 |
| 2地方での割合を増やす | 53.7  | 59.4 | 46.4  | 33.5   | 51.3   | 66.3 |

1) 単回答。単位は%。

100 100 100 100 100 100

表2- アセアン6ヶ国アンケート：Q9 年2回発行の「Dear Friend」を受取っているか

|      | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1はい  | 46.8  | 72.5 | 53.6  | 65.2   | 66.5   | 64.4 |
| 2いいえ | 53.2  | 27.5 | 46.4  | 34.8   | 33.5   | 35.6 |

1) 単回答。単位は%。

100 100 100 100 100 100

表2-28 アセアン6ヶ国アンケート：Q10-1 同窓会活動に参加しているか

|          | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|----------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1積極的に参加  | 12.8  | 10.1 | 11.4  | 12.6   | 5.8    | 15.8 |
| 2ときどき参加  | 32.1  | 51.5 | 23.4  | 36.9   | 15.5   | 25.7 |
| 3参加していない | 55.0  | 38.4 | 65.3  | 50.5   | 78.7   | 58.4 |

1) 単回答。数字は%。

100 100 100 100 100 100

表2-30 アセアン6ヶ国アンケート：Q10-2 同窓会活動に参加しない理由

|              | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|--------------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1忙しい         | 18.2  | 39.1 | 9.0   | 19.2   | 52.7   | 22.0 |
| 2首都圏に居住していない | 27.7  | 17.9 | 26.9  | 29.2   | 1.0    | 14.3 |
| 3同窓会の情報がない   | 13.6  | 16.8 | 38.0  | 33.8   | 25.6   | 35.2 |
| 4同窓会活動に興味がない | 2.7   | 14.0 | 1.8   | 10.8   | 9.1    | 2.2  |
| 5同窓会が加入に消極的  | 1.4   | 0.0  | 5.4   | 6.9    | 1.0    | 7.7  |
| 6その他         | 36.4  | 12.3 | 18.9  | —      | 10.4   | 18.7 |

1) 複数回答。数字は%。

100 100 100 100 100 100

表2-31 アセアン6ヶ国アンケート：Q11 将来の同窓会活動の展望について

|                | フィリピン | タイ   | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|----------------|-------|------|-------|--------|--------|------|
| 1会員のネットワークづくり  | 25.7  | 14.0 | 18.3  | 35.2   | 20.2   | 16.4 |
| 2現地ボランティアへの参画  | 4.5   | 6.8  | 12.7  | 10.6   | 12.0   | 8.0  |
| 3日本との国際交流      | 12.4  | 12.9 | 17.2  | 10.1   | 23.8   | 17.1 |
| 4アセアン同窓会との国際交流 | 9.3   | 13.1 | 15.5  | 11.6   | 16.4   | 16.4 |
| 5自国内の開発活動      | 14.0  | 15.5 | 9.6   | 9.0    | 4.9    | 9.4  |
| 6世界平和活動        | 7.1   | 7.6  | 8.4   | 7.0    | 7.4    | 7.0  |
| 7環境問題の活動       | 7.7   | 15.9 | 7.4   | 9.5    | 6.6    | 11.7 |
| 8人道支援活動        | 5.8   | 11.8 | 10.9  | 7.0    | 8.1    | 13.8 |
| 9その他           | 13.5  | 2.4  | —     | —      | 0.7    | 0.0  |

1) 複数回答。数字は%。

100 100 100 100 100 100

表2-29 アセアン6ヶ国：同窓会に参加している帰国青年の推定数

|              | フィリピン | タイ  | マレーシア | インドネシア | シンガポール | ブルネイ |
|--------------|-------|-----|-------|--------|--------|------|
| 1積極的に参加 (%)  | 1.4   | 1.4 | 1.0   | 1.3    | 1.2    | 2.6  |
| 1積極的に参加 (人数) | 28    | 28  | 19    | 25     | 24     | 16   |
| 2ときどき参加 (%)  | 3.6   | 7.3 | 2.0   | 3.8    | 3.1    | 4.2  |
| 2ときどき参加 (人数) | 70    | 142 | 39    | 73     | 64     | 26   |

1) 人数は、アンケートQ10-1の同窓会活動に参加しているかの割合から推定











JICA